

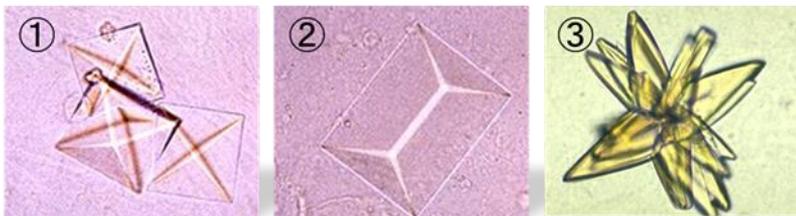
“おしっこ” その中に見る宝石の世界

通称“おしっこ”，私たちは「尿（にょう）」と呼んでいます。今回は，この「尿」の検査について紹介いたします。

皆さまにお採りいただいた「尿」は，色，にごり，臭いなどを観察したあと，尿試験紙を用いて，pH，比重，尿たんぱく，尿糖，ビリルビン，ウロビリノーゲン，潜血，尿白血球反応など（試験紙の種類によって測定項目は異なります）を調べます。尿をつけた試験紙の色の変化を肉眼で観察または機械で読み込み判定することにより，たんぱく，糖などの物質の量がどれくらい溶け込んでいるを判定します。短時間に全身の状態を反映する多くの内容を調べることができますので，健康診断や初めて病院で診察を受ける前には欠かせない検査となっています。

試験紙による検査のほかに，尿を試験管に入れて毎分1,500回で回転する（遠心分離といいます）と，尿中の成分が沈殿します。この沈殿物をスライドガラスに載せて顕微鏡で観察します。健康な人でも，赤血球やその他の固形物がごくわずかは見られますが，数が多い場合にどこにどのような異常があるかがわかります。

また，お砂糖を多く含んだ紅茶が冷えると底にお砂糖がたまる現象と同じく，尿の通り道に結晶がたまることがあります。顕微鏡でみると，結晶はその種類によって様々な形態をしており，その光景はまさにミクロの世界『宝石』のようです。



- ①シュウ酸カルシウム結晶
 - ②リン酸アンモニウムマグネシウム結晶
 - ③尿酸結晶
- （日本臨床検査専門医会HPより引用）